

第2部 提言の基礎:

21世紀におけるボールルームダンス文化のあり方を考える

第1章 人間とダンス ～ボールルームダンスの文化的意味と価値を求めて～

1. 人間にとってダンスとは何か

(1) ダンスの根源性

ダンスは、本質的に生命に内在するものであり、生命活動を再生し、活性化する根源的な営みである。

すべての民族は固有のダンスを持っている。つまり、人類はみな踊るのである。しかし、求愛のダンスに示されるように、動物もまた踊る。とりわけ鳥類のそれはよく知られている。その意味で、ダンスは決して人間のみが有する特権ではない。しかし、だからこそダンスは、“生命に内在する根源的な営み”だといえる。

また、ダンスは「諸芸術の母」ともいわれる。音楽はもちろん、絵画や彫刻などはダンスを媒介として豊かに発展してきたからである。もしも芸術が、音や色彩や形状の工夫によって、美的な世界を創造し、私たちの生を彩り、活性化する意味を有するものだとするならば、まさしくダンスこそは、その母として、生命活動を再生し、それを鼓舞し、より豊かにする営みにほかならない。

(2) ダンスのメディア性

ダンスは、人々の願いや希望を表し、それを広く伝えることによって、生命の復活と再生、その活性化を願い、祈るメディアである。

ダンスが“生命活動を再生し、活性化する”ことは、太古からよく知られている。たとえば、旧石器時代の洞窟遺跡で著名なアルタミラの壁画には、野生バイソンの狩りの様子とともに、人々が楽しげに踊る姿が描かれている。これこそ、古代人がダンスによって生きる喜びを享受し、豊かな恵みを祈念していた明確な証拠であろう。

あるいはまた、我が国の古事記における天岩屋戸の神話では、岩戸を閉じて身を隠した天照大神が、天受売女命の楽しげな踊りによって再びその身を現したとされている。それはまさに、ダンスによる生命活動の復活と再生の物語であり、人々は、古くからダンスがもつこうした意味を感知し、讃えてきたのである。

(3) コミュニケーションと表現のメディアとしてのダンス

ダンスは、人々の生きる喜びと深く関わり合いながら時代とともに発展し、今や、コミュニケーションと表現のメディアとして洗練され、固有の文化に発展した。

こうした例が示すように、ダンスは、人間の祈りや願いを神々に伝える重要な役割を担ってきた。その意味でダンスは、人々が神や自然の恵み、幸運、豊穡、健やかさを願い祈る際の、もっとも重要な営みの一つであった。こうした呪術的な意味合いをもつダンスは、時の経過とともに、宗教的な儀礼に、また、労働や戦闘に際しての意識高揚のために、さらに成人資格のテストなどとして用いられてきたのである。

そして人間は、長い歴史の中で、ダンスを洗練し、固有の文化として育んできた。即ち、リズムカルな動きの楽しみと喜びを基調にして、ダンスの多様な姿を工夫し、レクリエーションやレジャー、さらには芸術やスポーツにまで発展させてきたのである。こうして、今やダンスは、コミュニケーションと表現のメディアとして、固有の文化的意味をもつ独自のジャンルとなっている。

2. ダンスの概念

(1) ダンスの語義

ダンス(=dance)の原義は、“緊張と解緊の連続”であり、それが「はねる・とぶ」から「踊る・舞う」を意味するようになった。日本語では「舞踊」がこれにあたる。

ダンス(dance)の語源は、古ラテン語の *deante* にさかのぼる。これが古フランス語の *deuance* を経て英語化し、*dance* が誕生した。その原義は「緊張と解緊の連続」で、それが転じて「はねる、とぶ」という意味に変容し、さらに「踊り・舞踊」、あるいは「踊る・舞う」を意味するようになった。

ダンスは、当初「舞踏」と訳されていたが、明治時代に坪内逍遙が「舞踊」の訳語を用いてから「舞踊」が一般化した。「舞」は「まわる・まねる」、「踊」は「はねる・とぶ」を原義とする。日本の舞踊の歴史からは、「舞」は儀礼化した宮廷の踊り、「踊」は庶民の生活にみられる踊りとされている。ヨーロッパのダンスにも上流階級のダンスと庶民のダンスという区分はあるが、それぞれの名称はない。

(2) 現象としてのダンス

現象としてのダンスは、非日常的で遊戯的な動きと、リズムカルな動きの連続を共通の性格として有している。

現象としてのダンスは、リズムカルな動きの連続としてとらえられ、その動きは非日常的で遊戯的なものである。著名なオランダ人文化史家ヨハン・ホイジンハは、遊びを「競技」と「演技」に分けてダンスを後者に位置づけた。その後継者ロジェ・カイヨワは、遊びをその楽しみの原動力からイリンクス(めまい)、ミクリー(模倣)、アレア(運)、アゴーン(競技)に分けたが、それによれば、「舞」はミクリーの楽しみ、「踊」はイリンクスの楽しみと深い関連がある。

いずれにしてもダンスは、ミクリーやイリンクスの楽しみや喜びを、非日常的なリズムカルな動きの連続の中で統合化するという性格を有しており、日常的な自我の拘束から解放される遊びの楽しさを原動力としていることがわかる。

(3) ダンスの定義

ダンスは、遊戯的でリズムカルな動きの連続によって豊かなコミュニケーションと表現を楽しむ文化である。

ダンスの遊戯的でリズムカルな動きの楽しみは、その共有を通じて、豊かな交流体験を生み出してきた。そこからダンスは、さまざまなコミュニケーションと表現の様式を創り出し、それを深め、洗練してきたのである。したがって、すべての民族が固有のダンスを持つように、その様式は実に多様であり、その概念を定義づけることはきわめて困難であるとされる。しかし、先述した「その楽しみや喜び」を基調とするという観点で捉えるならば、ダンスは「遊戯的でリズムカルな動きの連続によって豊かなコミュニケーションと表現を楽しむ文化」と定義できよう。

3. ダンスの分類

(1) ダンスの志向性

ダンスは、コミュニケーションの楽しみを重視するものと、表現の楽しみを重視するものとに分けることができる。

こうした定義からすれば、ダンスは、リズムカルな動きの連続の共有から生まれる交流の楽しさを重視する「コミュニケーション系」と、リズムカルな動きの連続を工夫して、願いやイメージを表すことの楽しさを重視する「表現系」とに分けることができる。

たとえば、パートナーとの交流の楽しさがもっとも重要な意味をもつソーシャルダンスは前者の代表例であり、イメージやテーマを創造的な動きの工夫によって表現することが重要な意味をもつモダンダンスは後者の典型である。

(2) ダンスのスタイル

ダンスは、定められた踊りの様式に従って楽しむものと、リズムや動きを自由に工夫して楽しむものとに分けられる。

さらにダンスは、“リズムカルな動きの連続の様式が定められ、踊り手がそのフレームに従うことによって成立し、情緒をフレームに沿って高めていく楽しみを重視するものと、“踊り手が、自らの情緒と意匠に応じて、自由にリズムと動きを工夫する楽しみを重視するもの”とに分けることができる。

定められた衣装を身につけ、定式化されたリズムと動きで、民族や共同体の暮らし、伝統を表現することを楽しむ民族ダンスは前者の代表例であり、リズムに対応し、それに乗りながら動きを自在に工夫して楽しむブレイクダンスは後者の典型である。

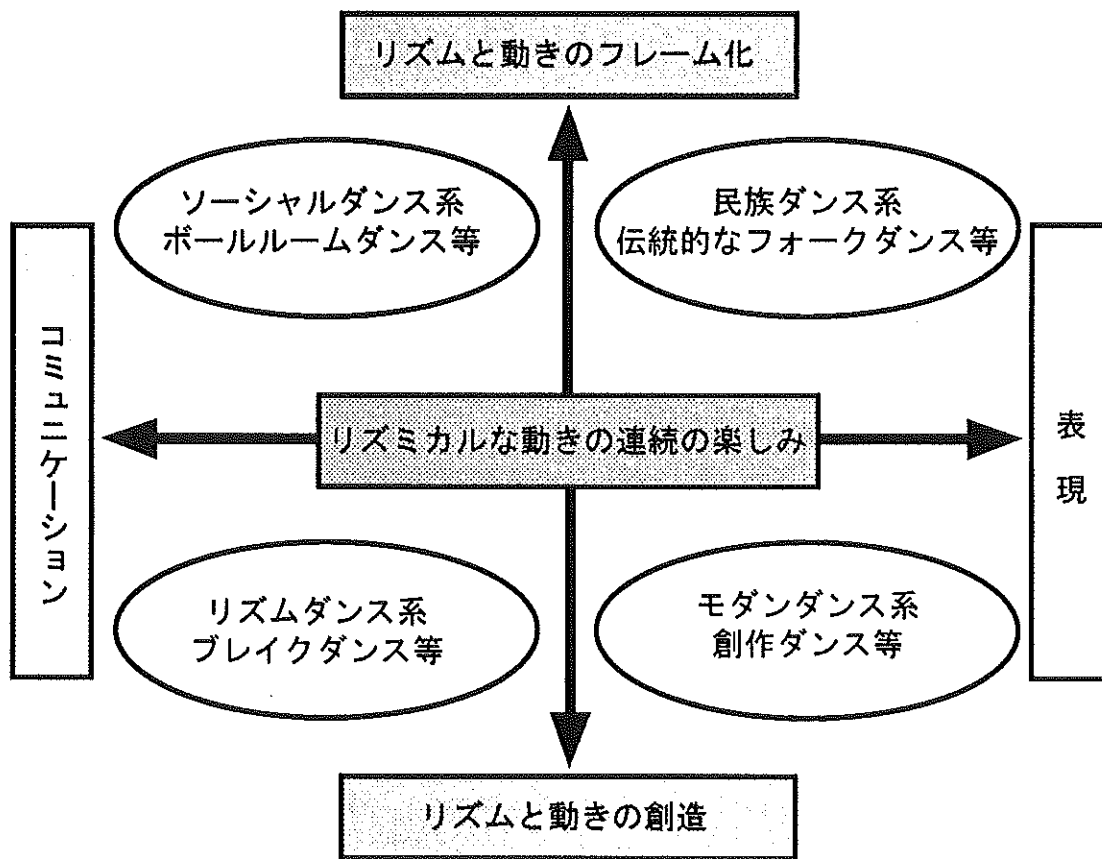
(3) ダンスの分類

ダンスは、コミュニケーションと表現、動きの定式性と自由性という2軸から、リズムダンス系、ソーシャルダンス系、民族ダンス系、モダンダンス系の4類型に分けることができる。

こうした視点から見ると、ダンスは、リズムカルな動きの連続の楽しみを基調にして、コミュニケーションと表現を縦軸にとり、リズムと動きのフレーム化したものと自由に創意工夫を加えるものを横軸にとることによって、4類型に分けることができる。

リズムと動きを自由に工夫しながら、コミュニケーションの楽しみを求めるのはリズムダンス系、踊りのフレームを共有して交流の楽しみを求めるのはソーシャルダンス系である。また、定められたフレームに従って表現の楽しさを求めるのは民族ダンス系、リズムと動きを自由に創造して表現する楽しさを求めるのがモダンダンス系ということになる。

図-1: 楽しみの特性から見たダンスの分類



この分類からすると、ボールルームダンスは、ソーシャルダンス系のジャンルに位置し、その基本的な性格は、広い意味で、「定められたリズムと動きのフレームにそって踊る楽しみを共有することにより、パートナーとの豊かなコミュニケーションを楽しむダンス」ということができる。

4. ボールルームダンスの文化的意味と価値

(1) 身体的コミュニケーションと表現のメディアとしてのダンス

ダンスは、身体的コミュニケーションと表現のメディアとして発展してきており、そのようなダンスがもつ文化的意味と価値は、ますます重要なものになってきている。

長い歴史のなかで、人間の英知は、ダンスをコミュニケーションと表現のための独自のメディアとして洗練し、そこに豊かな文化的な意味と価値を生み出してきた。

コミュニケーション・メディアとしてのダンスは、緊張と解緊のリズムを通じて「生命の秩序」と交流することを原点にしながら、一對のペアや小集団、あるいは特定の社会や共同体における身体的コミュニケーションの促進と共感を生み出す文化的仕掛けに発展し、さらには、超自然的な存在や神々との交流メディアにまで洗練されてきている。

一方、身体的表現のメディアとしてのダンスは、民族や共同体の人々の生活や暮らしを象徴的に表現するものへと発展し、さらには、美的なものに対する感性を磨き、信条や思想を表現する芸術の1ジャンルを構成するにいたっている。

「人間」が、まさしく「人と人の間の絆」、つまり交流によって自己を成就する存在であること、そしてまた、人間が言語及び記号的世界によって人間的な自然から遠ざかっていく現状を考えると、身体的コミュニケーションと身体的表現のメディアとしてのダンスこそは、きわめて重要な文化的意味と価値を有しているということができよう。

(2) ボールルームダンス

ボールルームダンスは、身体的コミュニケーションの楽しみと喜びを、誰もが容易に享受できるように工夫し、洗練してきたダンス文化の固有の領域である。

近世ヨーロッパの宮廷を中心とした社交界で発展したボールルームダンスは、身体的コミュニケーション、とりわけ一對の男女の意味ある相互作用の楽しみを、定められたリズムカルな動きに沿わせることによって、より味わい深いものとするように洗練されたダンス文化である。

近代になって、ボールルームダンスは世界各地へと広がり、多様な民族の音楽とダンス、その特有のリズムや動きを素材としてさらに豊かに発展し、固有のコミュニケーション文化を確立し、今や誰もが容易に享受できる世界共有のダンス文化の一領域に成長した。

こうしてボールルームダンスは、このような発展の中から、健康と交流を求めるレクリエーションの楽しみから、そのパフォーマンスの出来映えを競い合う競技スポーツに、さらには美的表現を追求する芸術の領域にまで発展しているのである。

(3) ボールルームダンスの特徴

ボールルームダンスは、パートナー間の相互信頼と相互尊敬に基づいた意味ある相互作用を生み出し、豊かな人間的交流の世界を創造する。

人類の原初のコミュニケーション手法は、身振りと発声に分から難く結びつく一体化したものであった。そして、繰り返される身振りは、リズムカルな動きの連続に発展してダンスを、繰り返して発せられる声は、特有の意味を有する発話に発展し、言語を誕生させたのである。その意味でダンスは、非言語的コミュニケーションの根源的なものであり、とりわけボールルームダンスは、このコミュニケーションの根底に連なりながら、もっとも洗練された人間的交流の文化として発展してきている。

ボールルームダンスのこうした文化的特性は、パートナー同士がリズムと動きのフレームを共有しながら踊ることによって生まれる意味ある相互作用、つまり「相互敬意と尊重」にもっともよく示される。

そこにボールルームダンスが「相互信頼と理解」に基づく時空間を創造する鍵があるのである。ボールルームダンスがこうした意味ある相互作用の楽しみに満たされるとき、そこに豊かな人間的交流の世界が創造される。

(4) ボールルームダンスにおける交流

ボールルームダンスは、相互尊敬と相互理解に基づいた真の人間的交流を育み、洗練する豊かな可能性とともに、自己開発や自己実現のための重要な文化価値を有する。

ボールルームダンスは、真の人間的交流の基礎を培い、育て、鍛え、洗練し、教養にまで高める可能性を有する。なぜならボールルームダンスは、一対の男女がリズムカルで連続した動きを共有することによって身体的コミュニケーションを相互に享受するメディアであり、そこでは、生命の原点に内在するエロスあるいはセクシャリティが洗練され、それを相互信頼と理解のなかで解放する心と技が求められるからである。その意味で、ボールルームダンスにおける身体的コミュニケーションは、パートナー間の相互理解を求める深い精神的な交流と統合化しているものなのである。

それ故、ボールルームダンスは、誰もがレクリエーションやレジャーとして楽しむことができると同時に、身体的コミュニケーションの豊かさを高度なパフォーマンスとして競い合う競技スポーツ、あるいは美的表現を追求する芸術にまで高まるのである。

このようにボールルームダンスは、健やかな生を育み、豊かな交流を培うことにとどまらず、創造的な自己開発や自己実現のための重要な文化的価値をも有している。こうした総合性において、ボールルームダンスは、21世紀の身体文化を大きくリードする可能性をも秘めているといえよう。